

鳩山 × 一路 サブカル対談

第3回

私たち2人が
映画・小説・漫画等について
好き勝手に語ります。

第3回目のテーマは、映画『悪人』です。

あらすじ

李相日監督『悪人』二〇一〇年制作

清水祐一（妻夫木聡）は、長崎の田舎で暮らす孤独な青年であった。佐賀の馬込光代（深津絵里）は、アパートと職場の往復だけの退屈な日々を送っていた。そんな二人が偶然出会い、刹那的な恋愛に身を焦がす。しかし、祐一には秘密があった。若い女性保険外交員（満島ひかり）を殺害した犯人だったのだ。最初に犯人と疑われた大学生（岡田将生）も絡み、人間関係が交差する。なぜ祐一は女性を殺したのか？なぜ光代は殺人者を愛したのか？引き裂かれた家族はどうなるのか？誰が本当の悪人なのか？祐一と光代の逃避行が始まる。

鳩山…どうでしたか、一路さん。

一路…そうだね、面白かったよね。

鳩山…うん、面白かったね。今年公開された映画の中では、……イカの目とか。

一路：(笑)イカの目にフューチャーして、古い演出っていう感じあった。

鳩山：古いね。それが、重い演出っていう感じで。

一路：色合いも何だか暗かったし。明るい色使ってなかった。赤いフリースくらいかな。

鳩山：赤いフリースの深津絵里がまぶしかったね(笑)妻夫木くんの悪役がよかった。

一路：悪役なんだけど、でも良い人を感じさせる悪役っていう意味では、妻夫木くんはすごく良い配役だったと思う。悪人なんだけど、本当かなって思わせる何かが残ってる感じがすごく良かった。

鳩山：目とかね、すごく良かった。笑顔とかも。

一路：ラストシーンの夕日を見る顔とかね。鳩山：あーあそこよかったね。

一路：あの終わりで良かったと思った。鳩山：あの終わりで良かったよね。結局あのラストは、何だろうね。人の心の美しさって夕日を見てきれいって思うこと？みたいな(笑)描きたいことは分かるんだけど。

ど。

一路：深津絵里に見せようと思って、目隠しして階段を上がって行くじゃん。だから他の人も共有したいっていう感じとかかな。

鳩山：それを考えると、松尾スズキのあのブレのなさっていうのは輝いてたね。

一路：そうだね。典型的な悪人(笑)鳩山：妻夫木くんは環境が罪を犯させたっていう部分があったけど、一方であんなぶれない悪人も世の中にはいるわけ。

一路：だから、今度は松尾スズキを中心にして『悪人』を撮ったら良いかもね。そして、意外に彼にもいろいろあるのかもよ。

鳩山：出てくる人がみんな良かったよね。柄本明とか、樹木希林とか。

一路：樹木希林すごかった。鳩山：いる、あんなおばあちゃんって。

一路：私この前思ったんだけど、おばあちゃん役はうまいって分かったからさ、今度

は熟女でモテる妖艶な役をやったら面白そう。どんな演技見せるのかなって思って。

あのおばあちゃんって妖艶な演技までできたらすごいよ。

鳩山：妖艶とか想像つかないもんね。見てみたいかも。

一路：この前友達と、最後の妻夫木くんが深津絵里の首を絞めるシーンで、あれをどう捉えるかって話をしたのね。私は深津絵里を思ってたの行動じゃないかって言ったんだけど、小説しか読んでない友達が、小説ではそこは曖昧に描かれてるから映画でははっきり描かれてたんだねって言ったんだけど、映画でも曖昧だったよね。

鳩山：映画でも曖昧だったよ。そこまでちゃんと描かれてなかった。ただ何かイラッとしたのか。殺意がある感じだったよね。

たらずいよ。

鳩山：この前友達と、最後の妻夫木くんが深津絵里の首を絞めるシーンで、あれをどう捉えるかって話をしたのね。私は深津絵里を思ってたの行動じゃないかって言ったんだけど、小説しか読んでない友達が、小説ではそこは曖昧に描かれてるから映画でははっきり描かれてたんだねって言ったんだけど、映画でも曖昧だったよね。

鳩山：映画でも曖昧だったよ。そこまでちゃんと描かれてなかった。ただ何かイラッとしたのか。殺意がある感じだったよね。

一路：小説では、その中に原因となるエピソードが挟まってるらしいんだよね。そのエピソードなかったよって話したら、その友達も、じゃあより分からなかったんじゃない？って。でも私は、吉田修一が脚本を書いているからこそ、そのエピソードを削ってより分からなくしたんじゃないかって思うんだよね。

鳩山：深津もどう思ってるか曖昧だよ。

あの人は悪人なんですよね、みたいな。結局あの人が悪人なのかどうか分からないまま終わるところが良いと思う。

一路…そうね。

鳩山…分からないアンド笑顔みたいな。

一路…(笑)

悪とは何か？

鳩山…結局、あの映画の根底にあるのは、悪って何なのか、悪人とは誰なのかってことだよ。それを考えさせるだけの映画ではある。

一路…そうだね。

鳩山…岡田くんも分かりやすい悪だったよね。チャラチャラ大学生という。

一路…(笑)

鳩山…岡田くんと妻夫木、OLの三人のあの一夜はそれぞれにとって不幸だったよね。OLは岡田くんにあんなに無下にされるし。

一路…死んじゃうしね。

鳩山…また、車内のOLのウザさがよく描かれてるよね。そりゃウザくもなるよねって感じで。

一路…自分の気のない人がすごい恋人ぶってる感じが。

鳩山…女将さんになるとか言っちゃうみたいな(笑)

一路…だけど、蹴らなくてもいいよね。あれ、すごいよね。

鳩山…降りるとか言われて。岡田くんは、自覚のない辺り、たちの悪い悪って感じだったね。

鳩山…OLも、見ようによっては悪だし、見ようによっては被害者でもある。本当にどの人も断言できない。松尾ズキ以外は(笑)

一路…(笑)どの人も、誰かに対して悪いことしてるもんね。

鳩山…OLもひどいしね、妻夫木くんに対して。

一路…そうそう、待ち合わせしてたのに勝手に他の男の人の車に乗って行っちゃっ

たりして。

鳩山…こうなったのはお前のせいだとか言ってる。

一路…あんなに言わなくてもいいのにな。普通に帰ってもらえばいいのに。物語をつぶすような発言だけ(笑)

鳩山…確かに、OLの立場に立ってみれば、あんなふうには後ろからつけて来られててキモいと思ってても仕方ない。

一路…確かに尾行されてたもんね。

鳩山…かわいそうな被害者ってなるわけではなくて、出会い系やってみました感じ悪くて醜聞が広まってさ。

一路…でも、わりとOLも「孤独だった」みたいに報道されてたけどね。

鳩山…親戚の人たちが集まったときに、売春婦まがいのことやってみたいに言われたし。

一路…あーあったね。

鳩山…妻夫木くんもお母さんにとってはお金せびる息子みたいな話もあったし。単純に良い人なのか、環境に巻き込まれて殺人を犯したのか、はっきりしない部分がある

よ。

一路：岡田くんにしても、一見勝ち組の典型のような役柄だけど、私としては、岡田くんは最後にまた笑ってて、この人はこうやって笑って生きていくんだなって感じに見えた。だけど、それがまた孤独な人だになっていう風にも見えた。大切な人はいるかってO.Lのお父さんは聞いてたけど、岡田くんは寂しい人っていう感じがして。大切な人を作っていけないのかなと思った。ただ、岡田くんみたいな人、たくさんいるよなとも思うけど。意外にちゃんと恋愛して、「彼女だけが大切」みたいな振る舞いもできる、みたいな。世渡り上手っていうか。

鳩山：それに比べ、光代の優しさは半端なかった。そんな光代と出会って良かったけど、自首しようとしたのを止めたのも光代だからね。罪を増すようなことをしたのも光代だもんね。光代にも罪は絶対にあるよ。具体的に刑罰で科せられるような。でもそれも結局、あの紳士服売場でまた働けるってことは、連れまわされたっていう形で

収まったってことだよな。

行為としての「悪」、精神としての「悪」

鳩山：それなりにみんなベタな感じの設定というか。分かりやすく、それなりの辛さを抱えてる。悪とは何かってことを描こうとしたときに、行為としての悪と、精神としての悪が対比されるのになって感じがして、精神としての悪が岡田くん、行為としての悪が妻夫木くん。精神としての悪がどれだけあっても、現実には行為としての悪が裁かれる。罪を犯したってことは、シンプルにこの人が悪かったっていう。

一路：行為としての悪が、精神としての悪を上回るのはいさ、行為としての悪は精神としての悪を制御できない結果発生するっていうのが根本にあるからじゃないの。東野圭吾の「殺意取扱説明書」っていう作品があるんだけど、主人公が殺意のマニユアールを見つけてっていう話で、気持ちをどう

コントロールしながら最後まで殺人をやっているかみたいなことが描かれてるんだけど。それを今思い出して、結局、岡田くんではなくて妻夫木くんが殺意をコントロールできなくて殺人を犯してしまうわけだから、妻夫木くんあの衝動がもう少しコントロールできてたら殺人は起こらなかったのと思う。私の友達は、妻夫木くんの正義感だったんじゃないかって言ってたけど。O.Lが「乱暴されたって言いつつ、自分には正しいっていう気持ちから怒りがきてるって。あの気持ちで制御できたら、殺人は起こらなかったし、深津絵里ともうまくいったかもしれない。まあそうしたら物語にならないんだけど（笑）結局、悪って何かって言ったら、行為として現れることだよな？ まあ、殺人犯しちゃったから。

鳩山：大前提において、殺人を犯したってことは裁かれることだよな。

一路：岡田くんも蹴ってるから行為には出てるよね。

鳩山：「ただ、裁かれるほどではなかった。複雑に悪が絡んで、特定できないよね。この人のこれが一番みたいなのは。この人のこれをしなければというポイントがたたくさんありすぎて。でも決定的に裁かれるのは、妻夫木。そう思うと、やっぱり罪が重いのは、行為としての悪だって言えるかもね。もちろん、その人の精神性がその人の行為に影響を及ぼすわけで、その人の精神性ってものもかなりの重要ではあるけどね。」

行為の「型」で伝える人格性

鳩山：「光代は結局、祐一のことを最後までどう思ってたのかな？ あの人は悪人なんですよねってつぶやいて終わるけど。一路：光代には祐一を信じていてほしいけど。そうじゃないと寂しいし。鳩山：でも、ただ首を絞める行為だけを見たら、どういう気持ちで首を絞めたかなん

て誰も分からないから。心根がどうかっていうのを他人が判断するのは相当難しい。逆に言うと、小説だったらどういいう心理をたどってきて首を絞めるに至ったのか表現することもできるけど、現実には絶対無理。こうだったって本人が言っても、裁判にでもならない限り、誰にも分からない。一路：だからこそ、人を裁くってというのが相当大変なんだよね。」

鳩山：「最近すごく精神には意味がないっていうことを感じるんだけど、どんな気持ちでいようと行為として表現されなかったら無いのと一緒なんだからっていうのをいろんな場面で実感する。自分のことを心配してくれてるけど何もしない人と、何も思っていないけど助けてくれる人がいたら、助けてくれる人の方がいいわけで。だからこそ、人間って行動の型とかがあるのかなって思う。変な例えだけど、飲み会で、グラスの空いた人にビールを注ぐとかさ、それってみんな何も考えてなくて型通りに行動してるだけだけど、気遣ってるって見えるじゃん。そういうのって行為にまで落

としこまない、伝わらないから。精神を大切にするよりは、行為を行う方が大切。良いとされてる行為をきちんと行うことが重要。逆に言えば、悪いとされてる行為を行えば、精神がどうかって問題ではなくて、それは悪。精神を判断しようがないから、行為の型ができていく。」

一路：「そうなんだけど、でもそれって寂しいよね。心の動きを知りたい。でも、表現されないと見えないっていうのもよく分かるよ。」

鳩山：「全く表現されなかったら、それは無いのと一緒だもんね。……同じこと言っただけだけ。」

一路：「(笑) だけどさ、なかなか表に出せないこともあるから、そうしたちよっとした動きを読み取ってくれる人がいたらいいよね。辛い時とかも、辛いてなかなか言いにくくて不機嫌な人みたいになつてるときに、あの人も普通なのに、今日不機嫌だから何かあったんじゃないかって思ってくれる人がいると、辛いよっていうのが言いやすくなるのかな。それも実は、

その人の型で聞いているのかもかもしれないけど(笑) まあ結局は、コミュニケーションってパターンとパターンの関係性よね。鳩山：心では嫌ってて笑顔の人と、心は好きだけど無表情の人がいたら、人間笑顔の人を選ぶと思う。それは証明しようがないよね。

一路：そうね。「悪人」の小説では、祐一が苦しめる人に何かする快樂殺人みたいな性癖があるっていうことになって、だから深津絵里を連れまわしたのも、怖がる彼女を無理やり連れまわすっていう性癖から来てるってことになってたみたい。しかも、捕まった後もそういう性癖があるって自分でつらつらと語るんだって。

鳩山：どどん精神は見えなくなるね。自分がそういうことを言ってしまうと、それが事実になる。いかに人間の精神が見えにくいのかっていうのが描かれてるよね。一路：見えにくいのは確かに見えにくいけど、本人も分かかってないこと多いじゃん。自分自身も本当にこうしたくてしてるのかも分からないっていうこともあるから。

鳩山：人間っていう謎は深いよね。自分は今分からないし、他人も分からない。

一路：だからこそ、表に出る行為だけで何とかやって行かないと、本当に精神まで探って行こうとしても、本当のことは誰も分からないよね。

鳩山：だからこそ、型っていうのがどんどん重要度を増すよね。社会における型っていうものが。

一路：型は重要だけど、そこでどう自分自身を表現するかなんだよね。まああるかどうかも分からない自分自身ではあるけど(笑) つまり、一瞬一瞬だよ。今の自分はこう表現したいっていう気持ち。

鳩山：日常生活を送っていると、日々の現実を追われて自分を表現するっていう行為は置き去りにされるって思ってるけど、だれど一方でそういう日常生活を送ることそのものが、自己表現なんだって感じることも多々あって。そういう状況のなかで、この人は自分にこうしてくれただとか、自分はどうしたとか、日常生活の積み重ねで、この人はこういう人だとかいくつものエ

ピソードがその人を作っていくから、日常生活の積み重ねが重要なんだよ。

一路：本来は、出そう出そうとしなくても、勝手に出るからね。それをいろんな人が見た結果、その人が形作られていく。自分探しが流行ったときに、探しても探しても自分は無いから、人と関わるのが重要で、関わったことで自分が出てくるって結論付けられてた。

鳩山：でもやっぱり、それだけがすべてじゃないって部分もあるよね。本当の自分があるかどうかは分からないけど、でも周りの人に分かれてないって思うこと。日常生活をただ送ってるだけじゃない関係っていうか。

自分の中の規範が「悪」を作る

一路：自分がどこを積極的に出していくのかっていうのは戦法としてあるよね。こういう風に思われたいなら、そこを積極的に

出していったって、そうじゃない部分を隠すとか。

鳩山：キャラ設定ってやつだね（笑）前に見てた韓流ドラマで、主人公以外の周りの人全員に良い人と思われてる登場人物が出てきて、そこまでみんなに良い人って思われるなら、もうこの人は良い人なんじゃないかって私は思ってたんだよね。むしろ自分だけが自分のことを悪人だと思ってる。思ってるから、悪人が自分だってことになってるけど、自分も良い人だと思ってれば、もはや完璧に良い人だよ。逆に道徳感が働いて、自分のことを良い人だと思って思えないから。良い人じゃなくなってるけど、いっそ道徳感の薄い人の方がもっと簡単に良い人になれる。

一路：ほんとそうだよ。私もよく悩んだ時とか、問題となってることって、だいた問題だっという規範があるから問題化されてるんであって、自分が自分の規範の中では問題でないって思えれば悩みは基本的に解決するんだよね。

鳩山：それは悩みじゃないって思えればね。

世の中の多くのことはそうだよ。

一路：目が細いとかで悩んでる人がいたら、規範が目が大きくてまつ毛長い人を良しとするからダメに思えるんであって、それが規範じゃない世界もあるって思えれば、問題じゃなくなる。

鳩山：正義感が強いからこそ、逆に罪を犯してしまふ、悪人になっていってしまうというパターンも往々にしてある。自分の中の規範こそが罪を作る。その人の善と悪みたいなものとか、他人と共有できないこともあるし。こんな曖昧な世界でよくやっていけるよね。

一路：ほんとだよ。よくやっていけるよね、人間。コミュニケーションがいかにか難しいか。

鳩山：よくやれてるよね。やれてないのかな？

一路：だからこそ面白いんだよ。複雑だから、うまくやれてないからこそ面白いんじゃない。やれてばかりだとつまんないよ。あんな、『悪人』のような、複雑な人間関係の中で。

鳩山：みんな揺れ動きながら、さも何事も無いかのように。

一路：よく分らない自分とよく分らない他人と、よくコミュニケーションを取ってられる。

鳩山：人間に乾杯ということ。

一路：（笑）

鳩山：ザ・エンドということ。終わらせなかった（笑）